

令和5年度 第1回南伊豆町地域公共交通会議 議事録

開催日時 令和6年1月23日(火) 13:30～15:00

開催場所 南伊豆町役場1階 多目的ホール (湯けむりホール)

出席委員 15名

代理出席 3名

欠席委員 4名

会議内容

1 開会

事務局による開会宣言

2 会長挨拶

会長である南伊豆町長による挨拶

3 町公共交通の概要について

(説明者：事務局 資料No.1)

○町の公共交通の概要について

- ・タクシー、バスについて概要説明
- ・町内公共交通に係る実績報告及び町の交通施策の概要説明
 - 高齢者通院バス料金助成
 - 障害者タクシー利用助成
 - へき地患者輸送事業
 - 高等学校等バス通学費補助
 - 小中学校児童生徒の通学費補助
 - ボランティアによる高齢者の外出支援 (訪問型サービスD)

(質疑応答等)

- ・質疑等なし

4 第1回及び第2回南伊豆町公共交通会議書面決議の報告

(1) 令和5年8月3日開催の第1回南伊豆町公共交通会議について（報告）

○協議事項は南伊豆町自主運行バスの再編についてでした。

- ・ 下田駅から下賀茂方面の路線は、下田駅～下賀茂線のほか、下田駅～子浦・伊浜線があり、南伊豆町自主運行バスと(株)東海バスの自社路線が混在して運行しておりました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により東海バスの収支が大幅に悪化したため地域間幹線系統及び自主バスの再編を実施しました。
- ・ 令和5年度10月より下田子浦・伊浜線の自主運行バス路線の終点を、下田駅発子浦・伊浜線着から下田駅発下賀茂着とし、下田駅発下賀茂着の路線を国庫補助路線（地域間幹線系統）といたしました。上記により下賀茂発子浦・伊浜線は自主運行バス路線となりました。
- ・ 乗り継ぎについては下賀茂までの運賃を支払っていただいた後、運転手から乗り継ぎ票を受け取り乗り継ぎ後のバスにおいて乗り継ぎ票を運転手へ渡していただき精算する方式で実施中です。
- ・ 再編により国庫補助路線（地域間幹線系統）は下田石廊崎線及び下田下賀茂線となりました。
- ・ 協議事項については全員賛成によって本協議事項は原案通り承認されました。

(2) 令和5年11月15日開催の第2回南伊豆町公共交通会議について（報告）

○協議事項は町道伊浜線の道路改良工事伴う臨時留車車庫設置についてでした。

- ・ 町道伊浜線の道路改良工事に伴う通行止めにより現在の留車車庫である伊浜バス停にバスを留車出来なくなるため、新たに波勝崎口停留所付近に臨時留車車庫を増設する申請が中部運輸局静岡運輸支局に提出する必要性が生じました。
- ・ この申請には地域公共交通会議の承認が必要になるため、委員の皆様へ書面での会議開催をお願いし、協議事項に対する承認の可否について伺うものでございました。
- ・ 協議事項については全員賛成によって本協議事項は原案通り承認されました。

4 協議事項

(1) 令和6年度南伊豆町自主運行バス事業について

(説明者：事務局 資料No.2)

○令和6年度自主運行バス計画について

- ・全13系統(うち、2系統は自家用有償旅客運送)を継続いたします。
- ・東海バスの自主運行バス乗降調査結果より令和6年度の運行について提案いたします。
- ・自主バスについては今年度大きな変更があったため来年度は継続して運行予定です。
- ・路線ごとの利用者実績について説明

○令和5年度交通空白地解消事業(市町村運営有償運送:なのはな号)の実績について

- ・4月から11月までで、一條と青野地区でコミュニティバスを運行し、運行回数138回、利用者数419人、毎月52人程度の利用があり地域の移動手段として利用されました。(※昨年度は運行回数134回、利用者数590人、毎月73人程度の利用)
- ・運行継続の条件は目標数値の3人を下回った場合は廃止の検討を行います。が、輸送人員が3人未満の場合であっても利用者意見交換会等で地域住民が交通サービスを必要としている場合は継続運行といたします。
- ・青野地区につきましては平均輸送人員が2.7人となり継続条件の3人を下回っておりますが経過を注視し継続運行していきます。また、一條地区については、継続条件をクリアしているため来年度も継続する計画としました。

以上により、来年度の自主運行バス計画については、全ての系統について継続運行としたいと考えております。

(質疑応答等)

委員：病院へ通うのに病院がバスを出していると思いますが、多くは青市の道路を経由して病院まで行っているが、町当局で病院バスの検討したことはありますか。

事務局：町当局で病院バスの検討したことはありません。

○承認事項

議長が以上の事項につき、原案どおりでよいか委員に諮り、全員賛成で承認されました。

(2) 地域間幹線系統の継続について

○地域間幹線系統の継続事業評価について

(説明者：静岡県地域交通課 浦田氏 資料No.4)

・地域間幹線系統とは

・静岡県の地域間幹線系統評価基準について

※補助対象事業が適切に行われているかの確認及び評価結果を分析し事業改善に繋げるため。6項目について評価を実施しました。

- ・令和5年度の評価結果については、南伊豆町内で対象となる石廊崎線はA評価（地域間幹線系統として適した運行）また令和4年度から評価が上昇しております。
- ・評価はA評価であります、利用者を令和元年から比較すると100万人程度減少しています。
- ・軽油価格や車両維持費も戦争や燃料費高騰や物価高騰により上昇傾向にあります。
- ・今後は、バスが当たり前走るものではなく国県市町事業者町民が協力して地域公共交通を守っていくということが求められています。

(説明者：東海自動車株式会社 和泉澤氏 資料No.5)

○国庫補助（地域間幹線系統）の継続について

～石廊崎線～

- ・当該路線は、伊豆急行の下田駅から南伊豆町の休暇村を經由し石廊崎オーシャンパークまでを結ぶ路線であり、南伊豆町の南崎地区から下田市内への通院、通学や下田駅から南伊豆方面への観光利用、また町内の小学生、中学生の通学の足として利用されています。
- ・下田市と南伊豆町の境となる「銭瓶峠」を越える利用は、当該路線の一日当たりの利用人数の半数近くになります。観光地であることから、観光客の利用もあり、通院等の利用も多く当該路線が高齢化率の高い南伊豆地区の住民の足として機能していることが分かります。
- ・下田市と南伊豆町を結ぶ路線であり、市町を跨ぐ利用が全体の5割となっております。

～下田一下賀茂線～

- ・当該路線は、伊豆急行線の下田駅から下田市と南伊豆町の境であり「銭瓶峠」をとおり途中の日野までは石廊崎線と同一路線ですが、そこから南伊豆町の中心で役場のある下賀茂までを結ぶ路線です。日頃は通学、通院、買物利用が主となっておりますが、下賀茂温泉への観光利用もあり、特に2月から3月にかけてのみなみの桜と菜の花まつりの際は、観光客が増加する路線です。鉄道のない南伊豆町から下田駅までを結ぶ系統であり、住

民にとっての移動手段として、重要な役割を担っており、欠かすことのできない路線となっております。

- ・ 下田市と南伊豆町を結ぶ路線であり、市町を跨ぐ利用が全体の3割となっております。

～国庫補助申請理由～

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け収支が大幅に悪化しております。
- ・ 石廊崎線については、今年度は行動制限等もないことから、観光客を中心に回復傾向にあるが引き続き収支状況が厳しいものがあることから、引き続き国庫補助によるご支援をいただきたいと考えております。
- ・ 下田駅下賀茂線では再編から3ヵ月程度しかたっていないため収支改善状況については不明ではありますが、引き続き収支状況が厳しいものがあり国庫補助によるご支援をいただきたいと考えております。

(説明者：事務局 資料No.5)

○町の地域間幹線系統の利用促進策について

- ・ 小学生及び中学生の通学補助
- ・ 高校生の通学補助
- ・ 高齢者の通院時のバス利用料金補助
- ・ 観光チラシ等に交通手段としてバス案内を記載
- ・ 観光施設にバス情報を掲示
- ・ 町では上記の対策を実施しており、地域間幹線系統を引き続き確保していく必要性があります。

○承認事項

議長が以上の事項につき、原案どおりでよいか委員に諮り、全員賛成で承認されました。

6 その他

(1) バス停の安全性確保対策の進捗状況について

(説明者：国土交通省 静岡運輸支局 原田氏 資料No.6)

○バス停の安全性確保対策の進捗状況について

- ・現在のバス停は安全性を確認したうえで現在の場所に設置しております。
- ・設置した後に周辺環境や道路環境の変化によって一部のバス停でバスが停車後に、歩行者の視界を遮る死角が出来てしまう状況が発生しております。
- ・2018年に神奈川県横浜市でバスが死角になったためバスを降りて横断歩道を渡ろうとした児童が自動車にはねられる死亡事故が起きました。
- ・このような事故を防止しようと国土交通省では検討会を立ち上げて自治体や警察やバス事業者等の関係機関と連携して対策を検討しております。
- ・危険度はABCで表示しており、静岡県内では令和2年12月時点で883件ありましたが、令和5年9月時点では528件となり335件の約4割を解決できました。
- ・表中の南伊豆町内の危険なバス停については、対象のバス停が24箇所あり、11箇所のバス停が対応済みとなりました。また、一番危険度の高いA評価のバス停は全て改善されているという状況です。今後も引き続き地元の関係者の御協力を得ながら移動できる場所は移動し対策を進めていきます。

～補足事項～

委 員：最近よく言われているライドシェアについては過疎地域あるいは大都市でも話題となっているが、過疎地位ではタクシーがない。町はライドシェアについてどのように考えているか？

町 長：ライドシェアについては12月の議会においても意見がございました。

南伊豆町では国の交付金を財源に検討し始めたところ、国からはタクシー会社やバス会社と連携するようと言われており実際に当町においてどのようにできるかはタクシー会社やバス会社と連携をして決定しようと検討しております。

また、夜にはタクシーが無いので飲食店からは夜の交通手段がないため人が来店せず、交通の足が欲しいとの声もうかがっております。また、東伊豆町では実証実験を行っているが最初の一月のみ乗客が乗ったがその後はあまり乗車されていないと聞いております。

新年度の会議にてどのような状況かをお答えさせていただきます。

委員：新聞で新聞記者が飲酒のある場所に取材に行くのに取材後の夜タクシーがないという記事が出ておりました。過疎地域のまちであり日本で一番困窮度が高い地域の為、日本で一番早く導入すべきと思ひ強く要望いたします。

委員：メディカルセンターというこの地域の基幹病院に通院するのに自家用車以外は一切の公共交通機関がないという状況が一條地区で起きている。下賀茂まで行く公共交通機関がない。地域毎に困窮している問題等を拾い出していただけるように適切な会議等を開催していただきたい。そのような会議でライドシェアも含めて議論ができるとありがたいです。

また、乗合で実際に事故があったときの責任等の法律上の縛りがあると思うので一般市民でアイデアを出すのはなかなか難しいためプロの方に検討していただいて会議に諮っていただき、町民の交通を守る努力をしてほしいです。

町長：大変貴重なご意見ですので、今後検討させていただきます。

下田土木事務所：先ほどの、東伊豆町で実施している「イナズマシャトル」の利用は、地元の人より分譲地や観光客の利用が多く、分譲地の方々からは大変喜ばれています。

また、湖西市ではBaaS(企業バスを利用した地域内交通)の実証を行っています。朝夕の自社送迎用のバスを地域交通へ利用するもので、MaaS(旅行者の移動に対応して複数の公共交通等を最適に組み合わせて検索予約決済を一括して行えるサービス)を利用しています。現在は、病院や薬局、スーパーマーケットなども提示で回れるようにしています。これにより、行政支出を抑えることができます。イナズマシャトルに関しても、周遊のバスからデマンド型のタクシー方式に変えることにより支出が減っていることから効果があると考えています。以上情報提供でした。

6 閉会 14:30